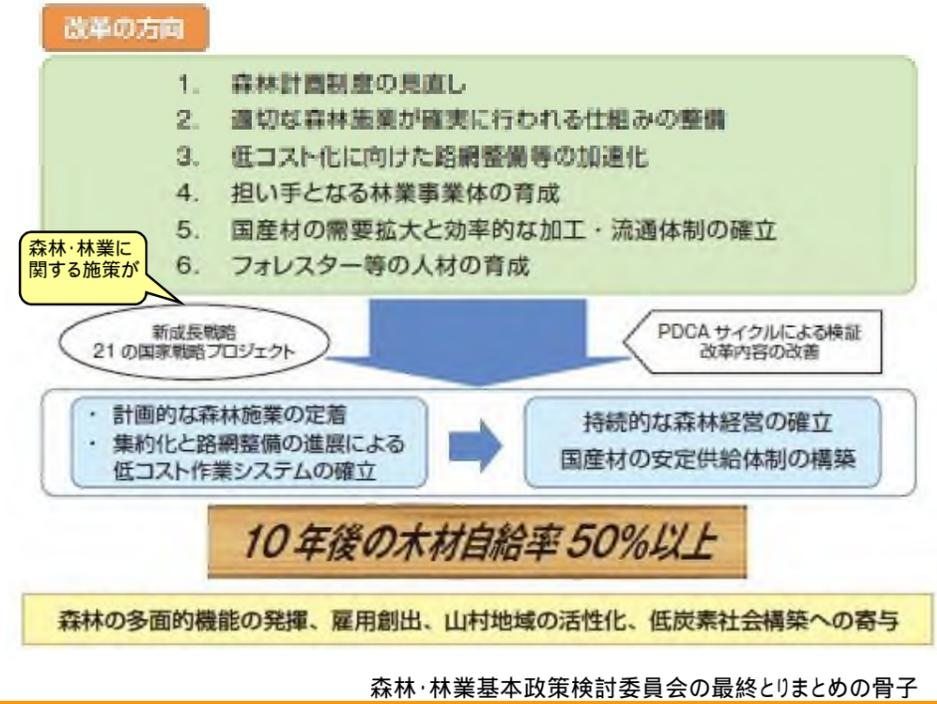


# 九州材の販路拡大と九州の森林づくりについて

## 我が国の森林・林業を再生する指針『森林・林業再生プラン』の骨子



## 九州の森林・林業・木材産業の特色と優位性（現状）

### 収穫期に達した成長の良い森林資源

- ・スギを主体とした豊富な人工林資源
- ・速い森林生長量
- ・短伐期林での皆伐・再生林の進行  
(多い長伐期化移行困難な人工林)
- ・豊富な未利用天然性広葉樹資源
- ・低い林内路網密度

### 高い木材生産能力

- ・高性能林業機械の普及
- ・民間林業事業体の成長
- ・大規模木材加工業の九州内立地
- ・原木市売市場の発達
- ・原木流通の広域化
- ・高い木材乾燥能力

### 豊富な圏域外への木材出荷実績

- ・古くから木材生産圏
- ・アジア国際マーケットに近接した地利
- ・県産材の販売戦略では外材に  
対抗できない

【年平均成長量】  
(主要林業県)

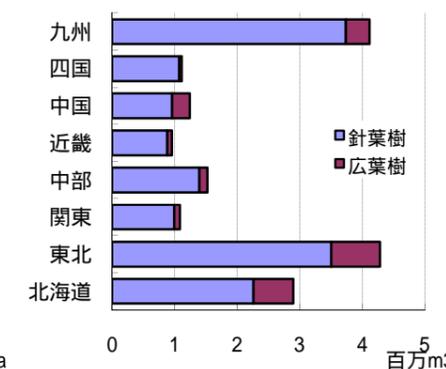
熊本	7.84
宮崎	7.80
鹿児島	7.30
高知	6.34
岐阜	2.12
長野	1.38
秋田	3.87
岩手	2.79
北海道	2.32

m3/年・ha  
国有林統計より

【ha当りの蓄積】



【地方別素材生産量】



東アジアの主要都市は、  
日本国内主要都市と、ほぼ同じ距離



## 九州の優位性を活かした「九州次世代森林・林業ビジョン」構築のための課題

### 次世代の九州の森林づくり

#### 短伐期人工林の適正な皆伐の推進

- ・九州の木の生長の早さを活かした短伐期循環利用林の育成
- ・樹冠長率が低く長伐期に向かない人工林の適正な皆伐の推進

#### 次世代を見据えた再生林の推進

- ・エリートツリー、コンテナ苗、疎植等による低コスト育林の実践  
(経営の持続性の確立)

#### 林業用路網の整備

- ・森林GISを活用した効率的な路網整備
- ・鉄鋼スラグ等を用いた低コストで耐久性の高い路網の整備
- ・異種の道をつなぐ山間地の道ネットワークの構築(防災対策も含む)

#### 森林の地籍調査の加速化(平成の検地)

- ・集約化促進のための所有、境界の明確化

#### 広葉樹林・竹林の有効活用

- ・広葉樹二次林(旧薪炭林)・竹林の循環活用

#### シカ被害対策

- ・官民連携による広域捕獲対策等の取り組み強化

### 木材の広域カスケード利用と木材の流通改革

#### 木材の自給率向上 九州域内自給率61% %へ(目標設定が必要)

- ・九州域内の用途別自給率の設定  
(製材、合板、製紙、バイオマス等の部門毎の目標自給率の設定)
- ・広葉樹材、竹材の活用

#### 素材生産の低コスト化と原木の安定供給

- ・機械化と人材育成(技能向上)による生産力向上
- ・国有林と民有林の連携によるシームレスな施業集約、路網整備

#### 原木流通の低コスト化・需給調整

- ・サプライチェーンマネジメントの構築  
(需要者ニーズに対応したマーケットインの供給体制)
- ・原木の直送システムの構築
- ・情報管理による需給調整システムの構築

#### 木材加工の効率化・高度化

- ・製材工場等の規模拡大、計画的な加工施設の増強による低コスト化
- ・中小工場の水平連携の推進
- ・乾燥材生産の推進による高品質化
- ・合板生産(高次加工)能力の向上

#### 木質バイオマスの利用促進

- ・木質バイオマス施設等の設置促進
- ・未利用木材の供給体制の構築

### 九州材ブランドの確立

#### 九州材の地域内外(国内)への販路拡大

- ・県産材の枠組みを越えた九州材の利用促進
- ・各県連携による規格品質の設定
- ・オール九州による九州材販促キャンペーンの実施
- ・公共建築物・木造住宅への九州材活用
- ・在来工法の「九州材」の提案
- ・新たな木材需要の創出(住宅、建築、土木、バイオマス等)

#### 九州材のアジアへの輸出拡大

- ・官民連携の市場調査(相手国の需要調査)
- ・アジア諸国での九州材のPR活動
- ・輸出対象国での木構造設計基準の改訂要求活動
- ・港湾の遊休ストックヤードを活用した原木輸出の促進